



①大根地神社鳥居/筑紫野市(おおねちんじゃとりい/ちくしのし)  
筑紫野市側の大根地神社鳥居です。この階段を上ると旧長崎街道に合流します。



②案内板(あんないばん)  
大根地神社鳥居の階段を上ると正面に案内板があります。九州自然歩道にもなっているようです。このあたりの道は③大根地神社鳥居まで軽自動車を通れるくらいの道幅です。



③大根地神社鳥居(おおねちんじゃとりい)  
旧長崎街道に面し、大根地神社参道入口として建てられたもので、鳥居の手前に「大根地宮十四丁」及び「正一位稲荷別格大々祀式鎮座」の石標柱が建っています。形式は稲荷鳥居です。



④郡境石「御笠郡」(ぐんきょうせき「みかさぐん」)  
郡境を明確にするために冷水峠に建てられました。鳥居の側に「従是西御笠郡」と銘文があります。



⑤郡境石「穂波郡」(ぐんきょうせき「ほなみぐん」)  
御笠郡の郡境石の対面にあります。「従是東穂波郡」と銘文があります。



⑥⑩石畳(いしだたみ)  
冷水峠頂上から内野宿のほうへ下っていくと石畳の舗装が散見されるようになります。下っていくにつれ道はしっとりと湿り気をおびてきます。雨の日は特に滑りやすくなっているので十分に注意が必要です。



⑦一里塚跡(いちりづかあと)  
一里塚(いちりづか)とは大きな道路の側に1里(約3.927km)毎に旅行者の目印として設置した塚(土盛り)です。一里塚が全国的に整備されるようになったのは江戸時代でした。慶長9年(1604)2月4日、江戸幕府は日本橋を起点として全国の街道に一里塚を設置するよう指令を出しました。一里塚には榎などの木が植えられ、木陰で旅人が休息を取れるように配慮されていました。また現存する一里塚の多くは道の片側にのみ存在しますが、街道の両側に対で設置されるのが本来の姿でした。



⑧石橋(いしばし)  
首なし地藏堂の前を流れる小川をまたぐように石橋が架けられています。橋は2枚の花崗岩の板石を両端の石垣のみで支持する板石橋の形式を採ります。下流側の板石側面に文政六年(1823)の銘が刻まれています。当時、多くの旅人がこの場所で足を休めたと言われ、冷水峠の名前はこの川の清流に由来するといわれます。



⑨首なし地藏(くびなしじぞう)  
＝民話＝  
昔、悪者がこの峠で旅人を殺害した。悪者はこのことを道ばたのお地藏様に向かい、誰にも言うなという。お地藏様は「ワシは言わぬがわれ言うな」という。悪者は驚いてお地藏様の首を叩き落として行方をくらました。その後何年かして二人の旅人がここを通りかかる。谷川の水で喉をうるおし、お地藏様を拝すると、首がないのに一人は驚くがもう一人の男はあの悪者であった。悪者は「ワシは言わぬがわれ言うな」のお地藏さまの言葉を忘れて、その首のないわけについて何年前かの自分の仕業を自慢げに白状した。話を聞いた男は、前にここで殺された旅人の血縁であったので、仇打ちが行われた。



⑪冷水トンネル(ひやみずとんねる)  
JR筑豊本線・筑前内野を過ぎると冷水峠を越えます。全長3kmほどの冷水トンネルを抜けて、峠を抜けると筑前山家となります。



⑫大根地神社鳥居/内野荒田(おおねちんじゃとりい/うちのあらた)  
冷水峠を下ってくると内野地区にある大根地神社の鳥居に出ます。ここで国道200号線に合流します。

